

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

- ・第3、4学年において年間35時間、第5、6学年において年間50時間の「英語科」を実施する。
- ・第3学年～第6学年においては、新学習指導要領への移行措置に基づき、「総合的な学習の時間」15時間を削減する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、平成16年12月8日に構造改革特別区域研究開発学校設置事業の認定を受け、第3学年以上において「英語科」の授業を実施してきた。その結果本市においては、児童、教員、及び保護者の中に、「英語科」に実施について、積極的な土壌が形成されていると考える。

本市の小・中学校には多くの外国籍児童生徒が在籍しており、学校教育の施策の1つとして、「グローバル社会に生きる人材の育成」を掲げている。多文化共生社会を構築していくためには、児童・生徒に確かなコミュニケーション能力を身に付けさせていくことが課題である。

以上のことから小学校における「英語科」の取組を今後も継続・発展させていくことは、本市の学校教育や英語教育の特色、及び地域の特徴を生かした教育活動を展開することであると、将来、本市の発展を担う人材育成にとって極めて重要であると考えている。

2. 自己評価

「令和元年度大垣市学校教育指導の方針と重点 達成状況調査」の2(1)③小学校からの英語教育の評価結果(A B C Dの4段階)

- ㊦ コミュニケーションへの積極的な態度の育成・・・A
- ㊧ 聞くこと・話すことの能力の評価・・・A
- ㊨ 言語や文化についての体験的な理解・・・B
- ㊩ 全教職員による指導体制の充実・・・B

(Aの理由)

- ◎全学年、ALTやVETと共に授業を行ったことで、どの学年の児童も楽しんで会話ができ、児童の英語への興味関心や技能の向上につながった。

3. 学校関係者評価

- ・堂々と英語を話す姿を見て、小さい頃から英語に触れることが大切だと感じた。とてもよいことである。
- ・地域人材講師(VET)を取り入れて授業を行うことで、英語を使ってコミュニケーションを図る場面を多くできている。
- ・地域人材講師(VET)と学級担任で授業を進めていたが、全員の会話を聞くためには、もっと多くの先生がいるとよいと思う。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本特例は、赤坂小校区に住む子どもたちが、将来グローバルな視点をもって活躍できるよう、「英語科」を設置し、コミュニケーション能力を高める教育を行うものである。実際、本特例を実施している本校においては、ALTやVETの配置により、児童の英語への興味関心や技能の向上につながっている。また、地域人材（VET）を活用し、児童が英語を活用してコミュニケーションを図る場面を多く位置付けている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例により、平成17年度より第3学年以上において「英語科」の授業を実施してきており、児童の英語への興味関心や技能の向上につながっている。実態として、平成31年度全国学力・学習状況調査の「児童質問紙」における『(25) 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか』の項目において、「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が、66.7%であった。更に、グローバルなかわりをもてる児童を育てていくための指導支援を充実させることが課題である。

5. 課題の改善のための取組の方向性

校内研修を位置付け、指導内容や指導方法を共通理解し、どの学級でも同じ指導を行えるようにする。また、市内の研究推進校の研究会へ積極的に参加するとともに、研修成果を校内に広め、個々の教員の指導力をさらに高めていく。